

市民の暮らしを守る質問を展開 日本共産党各議員の12月議会での一般質問



コロナ対策追加を 上野公悦議員

上野議員は、コロナ対策の充実を求め、持続化給付金の再交付やひとり親家庭への給付金の支給などについて市の姿勢をたずねました。

市長は、持続化給付金については「宿泊・飲食・交通関係で売上げが大きな落ち込みになっている

が、国がいろいろやっているのでも市独自の対策は考えていない。経済がさらに悪化したら、国の動きを見て検討する」と消極的姿勢を示しました。またひとり親への支援でも、「国が臨時特別給付金を決定したので、補正予算を追加提案するが、食料支給などの取組は市としては考えていない。フードバンクを紹介する」として、この点でも消極的でした。

これを受けて上野議員は、「年末年度末で営業は逼迫している。私も40年以上の商売で今が最も苦しい。売上げはずっと7～6割減少している。Gotoキャンペーンもほとんど意味がない。こうした現状に対して認識を新たにすべきだ」と迫りました。

これに対して市長は、「市内経済は、一時期よりも回復傾向にあるが、前年同期と比していまだに水面下であると認識している。Gotoキャンペーンは一定の効果があったと思っているが、飲食、酒造などは厳しい。職種によってまだらな影響が生じている。個別に市に相談してほしい」と答えました。

また、上野議員は、「ひとり親家庭のある市民は『子どもに欲しいおもちゃも買ってやれない。自分も一食減らしている』と言っている。こうした実態に対してとるべき手立てがあるのではないか」と追及しました。

市長は、「困窮している世帯には、いち早く手立てを打ってきた。生活保護もある。担当の窓口で継続的に福祉につながるようにしている。今後もすぐにつながるようにしていく」と答えました。



「適正配置」は慎重に 橋爪法一議員

橋爪議員は、財政問題や原子力防災問題、柿崎病院の県立維持問題、それに公の施設の適正配置問題についてたずねました。

公の施設の適正配置問題については、特に公民館の分館についてたずねました。

市長は、「安塚、大島、吉川で8月から現状と課題を報告し、方向性について話し合ってきた。地域振興のために施設を活用し続けたいという意向であったので、施設貸付とした。以前の整備計画については、2015～17年に地元と分館の位置付けについて協議したが、地域の公民館活動が活発であるとして、その計画はなくし、現在この整備計画はない」と答えました。

橋爪議員は、この答弁に対して、「市のホームページ(で検索すると)、公民館施設整備計画が掲載されている(出てくる)。東田中分館などは2999万円かけて整備するとしている。いつの間にか無くなってしまおうのはおかしいではないか。耐震工事がやられていれば、安心して使えることになる。行政の不作为である。これら経緯を踏まえて理解を得るのが筋ではないか」と追及しました。

市側は、「当時の『分館をなくす』という計画は無くなったということだ。残っている計画は施設の改修計画であるが、財政との整合性がなくなり現実的ではなくなっている。当時、地域ごとに施設の位置付けも異なり、使い方も異なっていた。当時から、機能と建物の取扱には議論があった。今回は、機能を残しつつ、貸館施設として残す方がよいのではないかとということである」と苦しい答弁に終始しました。

橋爪議員は、「地元へは丁寧に対応してほしい。現在、地元が草刈りや雪がこいをし、除雪は市がやっている。行政としてはコスト削減と言うが、どれほどの効果があるというのか。建物を準備して、地域に委ねて地域活動をしてもらってこそ、行政改革ではないか。こうしたことをもとに整理すべきではないか」と指摘しました。



バリアフリー化の推進を 平良木哲也議員

平良木議員は、公共施設におけるバリアフリー化を含むユニバーサルデザイン推進に

ついてたずねました。

平良木議員がまず進捗状況を問うと、市長は、「対象の586公共施設での適合率は昨年度末で66.1%であり、2022年度末に67.3%という目標達成に向けて順調であると考えている」と答えました。

この答弁に対して平良木議員は、「その目標の設定は妥当なのか。『バリアフリー施設は、あればなお良い』という程度の消極的な考えになってはいないか」と追及しました。

この追及に対して市長は、「計画を作った20年前はともかく、時代が大きく変わる中で、目標の見直しを含めて、障害者などに寄り添った施設の改修はしていく必要があり、市民が等しく便益を享受できる施設のありようを考える必要があると思う」と答えました。

続いて平良木議員は、「ユニバーサルデザイン指針に基づく修繕計画は、統一的に把握できているのか。また、担当部署では、全体の進捗状況と今後の見通しを把握し、他部署に働きかけて促進することが必要ではないか」と指摘しました。

この追及には副市長が答弁に立ち、「現実的に困っている方にお聞きして優先順位をつけることは当然必要だと思うので、担当課に確認し、仕事の進め方について整理する」と答えました。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.689 2021年1月10日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
 先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))

上越保健所管内感染症患者発生状況

(1月1日現在)

PCR検査実施件数 3,352件(前週+104)
 感染症患者数 25人(上越市内21人)
 陽性率 0.75%